



組合員参加で卵パックの回収率は100%に。



いわて生協が参加する大仙バイオマス発電施設を組合員が見学。

第6章

環境活動

地球温暖化防止と「原発に依存しない事業と暮らし」をめざし、取り組みをすすめています。

いわて生協 環境方針

環境理念

いわて生協は、2011年の東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故を受け、「原発に依存しない事業と暮らし」をめざし、取り組みをすすめてきました。その結果、いわて生協の事業で使用する電力の100%以上を再生可能エネルギーで賄い、CO₂排出量も目標を超えて削減することができました。さらに、2018年度からは再生可能エネルギー比率の高い

「コープのでんき」の組合員への供給も開始し、利用世帯を広げています。

持続可能な地球を子どもたちに残すために、引き続き、人類共通の課題である「地球温暖化防止」のための取り組みを、組合員と一しょにすすめていきます。また、プラスチック問題や食品ロス問題などあらたな課題にも取り組みます。

環境方針

1. いわて生協は従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、全常勤者が知恵を込め、以下の活動に取り組みます。
 - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすために、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわし、継続的な改善を積み重ねていきます。
 - (2) CO₂排出量は、「2013年を基準に2030年までに40%削減する」目標を掲げています。再生可能エネルギーの導入推進と、施設・設備の省エネ型への更新、常勤者の節電の取り組みにより、いわて生協で使用する電力の100%以上を再生可能エネルギーによる発電でまかなう状況を維持します。
 - (3) 資源の節約とリサイクルの活動を、組合員と一しょに、いっそう推進します。事業者責任として、容器包装の100%回収をめざし、年度のリサイクルの目標を設定して取り組みます。レジ袋有料義務化がスタートしますが、節約率100%を目標に、更に使用の削減に取り組みます。また、プラスチックを削減した商品の普及にも、組合員と一しょに取り組みます。
 - (4) 産直商品、アイコープ商品の開発や利用普及、地産地消の活動を、組合員と一しょにいっそう推進

します。このことで、輸送エネルギーの削減によるCO₂排出量の削減をすすめるとともに、県内農林漁業の復興・振興に寄与します。組合員には、輸送エネルギー削減によるCO₂削減効果についてわかりやすいお知らせを行います。

- (5) 食品ロス問題は、生鮮ロスの削減、生ごみリサイクル率の向上、「コープフードバンク」を通じた社会貢献など、事業者としてより積極的な役割を果たします。
- (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高める取り組みとして、「コープの森づくり」を継続します。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことに寄与します。

制定日 2011年5月23日
改定日 2020年3月30日
いわて生活協同組合
理事長 飯塚明彦

事業におけるCO₂(二酸化炭素)排出量削減の取り組み

2019年度CO₂排出量 2013年度比35%削減

2019年度、いわて生協の事業におけるCO₂排出量は1万2,114トン、前年度から1,067トン(約8%)削減することができました。2019年度のCO₂排出量削減目標「2013年度比31%削減」に対しても、「34.8%削減」と達成することができました。これに大きく貢献したのが、事業活動で使用するエ

ネルギーの5割を占める「電気」の再生エネルギー活用です。2016年度より、日本生協連の電力会社「地球クラブ」から再生可能エネルギー比率の高い電気を購入するなど、電力の切り替えをすすめてきました。これまでと比べてCO₂排出係数が低くなることで、CO₂排出量の削減につながっています。

事業におけるCO₂排出量



秋田羽川風力発電「風みらい1号」

「CO₂排出ゼロ」電力を6事業所に

2020年4月1日からは、5店舗と1共同購入センターでCO₂排出ゼロの電力を導入しました。いずれも岩手県内でつくられた再生可能エネルギーによる電力を使用しています。

岩手八幡平地熱発電所	コープ高松、ベルフ仙北、ベルフ山岸、ベルフ牧野林
花巻バイオマス発電	コープ花巻あうる
野田村バイオマス発電	久慈センター

事業所での節電、施設設備省エネ化の取り組み

店舗・共同購入を中心に、電気設備の温度点検の取り組みを改善し、メンテナンスを強化するなど節電の取り組みをすすめた結果、電気使用量は計画内に収めることができました。新たに建設したPC棟には、LED照明や高効率空調設備など、省エネ・環境対応設備を導入しました。

環境分野 第9次中期計画 (2019・2020年度)

1. 地球温暖化防止とプラスチックごみ問題の解決に貢献するため、リサイクル活動を強化します。
 - (1) リサイクル活動のお知らせを強化し、回収量を増やします。レジ袋有料義務化がスタートすることから、レジ袋節約率は100%をめざし取り組みます。2020年度末は86%をめざします。
 - (2) リサイクルセンターの建設準備をすすめます。
2. 環境に配慮した商品の利用を増やします。
 - (1) 産直品やアイコープ商品の利用が、輸送エネルギーの削減=CO₂削減となることのお知らせを強く、利用を増やします。
 - (2) 環境に配慮した商品やプラスチック包材削減商品などの利用普及に取り組みます。
3. 「原発に依存しない事業と暮らし」をめざし、CO₂排出量削減と再生可能エネルギーによる創電をすすめます。
 - (1) CO₂排出量は、「2030年に2013年度対比40%削減」を目標に、2020年度29%削減をめざします。
 - (2) 創電と節電の取り組みをすすめ、事業が拡大しても、2020年度に事業で使用する電力の107%相当を再生可能エネルギーで調達することをめざします。
4. 「コープの森」の活動を継続します。



いわて生協が参加する野田木質バイオマス発電



コープ東北羽川風力発電を組合員が見学しました。

原子力発電に依存しない事業をめざす取り組み

事業所の電気使用量116%相当を再生可能エネルギーで確保

東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原発に依存しない事業と暮らし」をめざし、再生可能エネルギーによる創電を積極的にすすめています。

2019年度事業所の電気使用量は、2,686万kWh（前年比103.3%）。これに対し、再生可能エネルギーで3,108万kWh（前年比114%）を発電し、電気使用量の116%相当を再生可能エネルギーで確保することができました。さらに、再生可能エネルギー発電比率の高い電気を組合員に供給する「電気小売事業」は、2年目で4,475件に利用が広がりました。

また、2020年4月から、松尾八幡平地熱発電所と姫神ウィンドパークからの電力調達を開始しました。

太陽光・風力発電は前年を上回る稼働

コープ東北羽川風力発電

2019年度発電量 669万kWh（前年比107%）

みやぎ生協・コープあきたと共同で風力発電3基を秋田県に建設。うち1基がいわて生協の「風みらい1号」。2016年10月稼働。発電出力は2.5MW。

野田木質バイオマス発電

2019年度発電量（いわて生協分）1,089万kWh（前年比100%）

日本生協連、コープ東北サンネット事業連合などとともに参加。2016年8月本格稼働。発電出力は14MW。

花巻木質バイオマス発電

2019年度発電量（いわて生協分）748万kWh（前年比100%）

2017年2月稼働。いわて生協は同年5月より参加。発電出力は6.25MW。

大仙バイオマス発電

2019年度発電量（いわて生協分）309万kWh

2019年2月稼働。いわて生協は同年4月より参加。発電出力は7.05MW。

太陽光発電

2019年度発電量 95万kWh（前年比107%）

20の事業所（758kW）で発電しました。2019年度はセリオホール緑が丘・水沢・矢巾の3事業所に新たに設置しました。

太陽光発電設置事業所(2019年度稼働)

事業所名	発電出力(kW)	事業所名	発電出力(kW)
セリオホールみたけ	25	コープ関コルザ	80
釜石センター	20	盛岡南センター	74
セリオホールみやこ	10	宮古センター	25
ベルフ牧野林	49	コープ花巻あうる	98
久慈センター	20	セリオホール仙北	43
けせんセンター	20	花北センター	58
ベルフ山岸	30	セリオホール岩泉	20
県南センター	44	セリオホール緑が丘	29
セリオホール牧野林	16	セリオホール水沢	22
ベルフ八幡平	99	セリオホール矢巾	22
		合計	758

廃棄物の削減、リサイクルの取り組み

組合員とすすめるリサイクル活動 回収量は4,474トンに増加

2017年度から、トレイ、紙パック、卵パックの全量回収をめざし取り組んでいます。2019年度も回収ルールについて様々な媒体で発信し、リサイクル参加を呼びかけました。総回収量は4,474トン（前年比118%）となり、CO₂削減効果は2,974トンになりました。

回収率が40%にとどまるトレイの回収を広げること、リサイクルできないものの割合が3割にのぼる卵パックの回収ルールを周知することが課題です。

2019年度リサイクル3品回収量・回収率

品目	回収量(前年比)	回収率
トレイ(発泡スチロール・透明)	66.4トン(109%)	40.0%
紙パック	76.0トン(106%)	80.6%
卵パック	28.2トン(112%)	100.1%

レジ袋節約率は60.6%に向上

店舗では毎月の「お買い物袋持参の日」を中心にレジ袋節約に取り組みました。店内放送やレジでの声かけ、マイバスケットの普及に加え、レンタルバッグの設置など取り組みを強めた結果、レジ袋節約率は2019年度末60.6%（前年+5.3%）に向上しました。

2019年度 レジ袋節約効果

レジ袋節約枚数	744万枚
石油節約効果(推計)	6万1,062ℓ
CO ₂ 削減効果(推計)	24万5,739kg



古紙回収機 5店舗で670トン回収

新聞やチラシ、雑誌などを回収する古紙回収機を、5店舗に設置しています。2019年度は670トン（前年比98%）を回収しました。

古紙回収機設置店舗

- ・ベルフ仙北（盛岡市）
- ・コープ関コルザ
- ・コープ花巻あうる
- ・マリンコープドラ（宮古市）
- ・コープアテルイ（奥州市）

生ごみリサイクル率66%

店舗の生ごみリサイクルは352トン（前年比92%）、リサイクル率は66%でした。

※食品リサイクル率は、法律で55%以上が目標です。

生ごみリサイクル状況

店舗	用途	重量(前年比)
盛岡・滝沢店舗	発酵ガス発電、液肥原料	66トン(96%)
コープアテルイ(奥州市)	堆肥原料	33トン(100%)
コープ関コルザ	動物の餌	5.9トン(54%)
コープ花巻あうる	肥料原料	14トン(74%)
全店(魚アラ、惣菜油)	飼料・肥料原料	168トン(97%)

「岩手県環境活動表彰」を受賞

CO₂排出量削減を中心に、この間の環境の取り組みが評価され、「令和元年度岩手県環境活動表彰」地球温暖化防止部門を受賞しました。



岩手県「エコショップいわて認定店 優良事例表彰」を6店舗が受賞

岩手県「エコショップ」制度でこの間のリサイクルの取り組みなどが評価され、6店舗が表彰されました。

2019年度エコショップいわて優良事例表彰

- 部門別表彰 「レジ袋削減の部」コープチェリオ（宮古市）
- 部門別表彰 「廃棄物発生抑制の部」コープ高松（盛岡市）
- 総合表彰 ベルフ山岸（盛岡市）、ベルフ仙北（盛岡市）、コープ花巻あうる（花巻市）
- 特別表彰 コープアテルイ（奥州市）



毎年組合員が参加して取り組む森づくりの活動。



マイバケットなど、環境にやさしい取り組みを広げました。

持続可能な地域社会をめざして 組合員活動の取り組み

2か所の「コープの森づくり」に 224人が参加

岩手の豊かな森林を残していこうと、組合員参加で「コープの森づくり」に取り組んでいます。

2010年から取り組んでいる「コープの森 in くずまき」は、植樹活動に組合員・常勤者など69人が参加し、トチノキなどの苗木300本を植樹しました。10年間での植樹本数は、委託分も含め2万本となりました。

「コープの森 in まえさわ生母～国の天然記念物イロハモミジの森づくり」の活動は、6年目となり、植樹活動は最後となりました。11月の植樹には組合員・常勤者55人が参加し、イロハモミジの苗木30本を植樹しました。この6年間の植樹本数は180本。今後も引き続き下草刈活動に取り組めます。

「コープの森づくり基金」 収入は275万円に

2012年に「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した紙パックの益金と共同購入チラシ益金の一部、「苗木一本募金」、お取引先協賛企画による募金を積み立てています。

2019年度の収入は277万円（前年比101%）で、組合員による「苗木一本募金」は16万8千円（前年比122%）。また、みちのくコココーラ様の協賛で、「対象飲料1本利用につき1円がコープの森募金」になる企画を継続しました。

「コープの森づくり」を支えてくださる企業を募集しています。お問い合わせは、環境事業推進室（TEL 019-687-1321（代））まで。

2019年度コープの森づくり基金収支

収入	苗木一本募金	16万8,000円
	牛乳パック、共同購入チラシ売却代金	238万4,261円
	協賛金など	20万 321円
	計	277万8,502円
支出	くずまきの森費用	62万1,518円
	まえさわ生母の森費用	104万6,732円
	広報費用	64万8,854円
	計	231万7,104円
収支	コープの森づくり基金へ	46万1,398円

※コープの森づくり基金の2019年度残高は491万8,405円となりました。

組合員の集まりで プラスチックごみ問題を学習

リサイクルやマイバッグの参加を広げようと、「初夏のコープのつどい」「秋のコープのつどい」で学習に取り組みました。世界的な問題となっているプラスチックごみの現状と、コープ商品のプラスチック使用量削減やリサイクルについて学び、取り組みへの参加を広げました。

コープ商品 プラスチック使用量削減の取り組み

<p>1. Reduce リデュース 使用量を減らす</p> <p>包装を省く、小さくする、薄くするなど、使用量を減らします。</p>	<p>2. Reuse リユース 繰り返し使う</p> <p>洗剤やシャンプーなどの詰め替え用を充実します。</p>
<p>3. Recycle リサイクル 再び資源に</p> <p>回収プラスチックを原料にした包材の利用を広げます。</p>	<p>4. Biomass バイオマス 植物由来の素材使用</p> <p>植物からできたプラスチックの利用をすすめます。</p>

環境に配慮した商品の利用普及の取り組み

産直品やアイコープ商品の利用普及は地産地消を推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。また、生産・流通・消費がすべて岩手県内で完結するため、輸送エネルギーの削減につながります。2019年度の輸送エネルギー削減効果は、CO₂ 1万8千トンに相当します。

農産チーム

「顔とくらしの見える産直品」 供給高は6億6,577万円(前年比98%)

産地交流は、子育て世代対象の「ハピママコープ」でも取り組み、17企画に418人の組合員が参加。生産者との交流が深まりました。2つの産直会に新たな生産者が加入するなど前進面もありましたが、天候や相場安が影響し、供給は前年を下回りました。

水産チーム

アイコープ商品・産直品 供給高は1億9,480万円(前年比102%)

産直真崎わかめの利用拡大を中心に取り組みました。組合員・常勤者が学習や生産者との交流などを通して産直真崎わかめの特長を学び、利用を広げました。またギフトでの利用も広がり、値上げにも関わらず年間利用重量は28.1トンに伸長しました。

畜産チーム

産直肉・アイコープ商品 供給高10億5,114万円(前年比101%)

産直アイコープ豚や産直若鶏などの学習会が14企画行われ、組合員323人が参加。産直肉やアイコープ商品の特長とおいしさを実感しました。共同購入のいちおし商品の取り組みを中心に、アイコープ商品のよさと利用を広げることができました。

惣菜チーム

岩手県産食材を使った惣菜商品 供給高は3億8,736万円(前年比103%)

県産食材を使った商品として、新たに岩手県産わかめの唐揚げなどを取り扱いました。また、岩手県産食材を使った惣菜商品の供給コンテストを全店でを行い、おいさと利用を広げました。

日記・グロサリーチーム

産直品・アイコープ商品 供給高は15億8,903万円(前年比97%)

産直生産者との交流や学習会に組合員432人が参加。特に、産直米や産直牛乳の交流会に多くの組合員親子が参加し、生産者と交流を深めました。複数の商品が製造中止した影響で、供給は減少しました。

葬祭事業セリオ

エコ棺のご利用は562件(前年比117%)に

葬祭事業では、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。この「エコ棺」は管理された森林から採取した木材パルプを使用した、特殊三層構造の紙製の棺です。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時の燃焼による排ガス汚染は3分の1に低減されます。また、供給の一部を東京都青梅市御岳の山「グリーンアークの森」の植樹活動に寄付しています。2019年度は施行件数の40%にあたる562件で使用されました。

環境マネジメントシステム (EMS)

いわて生協は2000年に県内流通分野で初めて環境マネジメントシステム (EMS) の国際規格ISO14001の第3者認証を取得し環境活動に取り組んできました。2009年に3回目の更新審査で認証を得ましたが、2010年下期からは独自のEMSに移行しました。EMSの仕組みを生かしながら、省エネ設備や創電など、より戦略的なテーマに取り組んでいくことがねらいです。

内部環境監査

2019年度は7月9日から8月10日に71事業所で実施。是正は前年より4件少ない1件にとどまりました。是正事項はすみやかに改善されました。

環境情報

環境活動に関するお申し出は、レジ袋の節約やリサイクルを中心に28件が寄せられました。

環境負荷とリサイクルフロー

エネルギー・資材の使用

■エネルギーの使用

電気	2,638万kwh
LPG	226,948m
灯油	94,672ℓ
ガソリン	280,796ℓ
軽油	430,951ℓ
車両LPG	13,475m
ドライアイス	544,030kg
水	145,218m

■資材の使用

紙
コピー紙(A4換算) 1,462万枚
コピー紙(広報物等) 3,435トン

容器包装材
レジ袋 41,940kg
ポリ袋 7,254kg
トレイ 166,950kg
ラップ 24,122kg
共同購入シッパー内袋 18,337kg

車両使用台数(425台)
ディーゼル車 215台
ガソリン車 202台
電気自動車 8台
(2020年3月現在委託車両は含みません)

環境への排出

■大気への排出

CO₂排出量 12,114トン

■廃棄物

一般廃棄物 859トン

■事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2019年度	前年比
紙	71,083kg	83%
ビン・缶	125,390kg	92%
発泡スチロール	42,440kg	78%
発泡スチロール(インゴット化)	29,533kg	106%
ダンボール	1,544,871kg	102%
廃食用油	26,010kg	102%
魚アラ	146,103kg	96%
肉脂	64,227kg	97%
生ごみ	352,422kg	92%
共同購入シッパー内袋	18,034kg	158%
PPバンド	707kg	114%
合計	2,420,820kg (2,420トン)	98%

※油は1ℓ=0.9kgで換算。

組合員のリサイクル活動(店舗・共同購入)

上段：回収量(前年比) 下段：枚数換算値

トレイ(発泡)	54.6トン(118%) 1,091万枚	▶ トレイに再生
トレイ(透明)	32.4トン(121%)	▶ プラスチック製品に再生
ペットボトル	146.2トン(104%) 243万本	▶ 卵パック・プラスチック製品に再生
卵パック	28.2トン(112%) 166万枚	▶ 卵パック原料に再生
紙パック	76.0トン(106%) 228万枚	▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロールを含む紙製品に再生
共同購入チラシ	3,281トン(102%)	▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロールを含む紙製品に再生
共同購入内袋(チラシ包装袋)	18.0トン(159%)	▶ プラスチック原料に再生
古紙	670トン(98%)	▶ 紙製品に再生
アルミ缶(スチール缶)	101.8トン(118%)	▶ アルミ・鉄製品に再生
廃食用油	2万6千リットル(102%)	▶ 飼料原料として再利用
ダンボール	60.4トン(175%)	▶ ダンボールに再生

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

いわて生協のリサイクルの流れ

食品トレイ
店舗共同購入 ▶ トレイメーカーエフビコ工場 ▶ 再生トレイ

ペットボトル、卵パック
(ペットボトルは店舗のみ)
店舗共同購入 ▶ リサイクル業者洗浄・ペレット化 ▶ プラスチック製品

紙パック・共同購入チラシ
(共同購入チラシは共同購入のみ)
店舗共同購入 ▶ 古紙回収業者 ▶ 一関市上山製紙 ▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロール等の紙製品

古紙
店舗 ▶ 古紙回収業者 ▶ 製紙会社 ▶ 紙製品

発泡スチロール
店舗SC、FC ▶ 本部・リサイクル業者で減容処理(インゴット化) ▶ 再生原料として出荷

ダンボール
共同購入 ▶ 古紙回収業者 ▶ 製紙会社 ▶ ダンボール

環境活動のあゆみ

1990年 いわて生協誕生	・牛乳パックの回収リサイクルを開始。 ・買い物袋節約スタンプ制開始。	2009年	・本部構内にBDF精製施設を設置。 ・透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始。 ・盛岡エリア店舗の生ごみ(食品残さ)を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始。
1991年	・使用済みOCR用紙のリサイクルを開始。 ・食品トレイの回収開始。	2010年	・「コープの森づくり」が葛巻町でスタート。 ・BDF使用が本格化し共同購入トラック24台で走行。 ・県「エコショップ」制度で特別表彰。 ・ISO14001を終了。独自EMS運用へ。
1992年	・アルミ缶の回収を青山店(現ベルフ青山)で開始。	2011年	・東日本大震災と原発事故を受けて「原発に依存しない事業とくらし」をめざす方針を決定、取り組み開始。 ・家庭の使用済み揚げ油回収スタート。 ・「低炭素杯2012」で、特別受賞。 ・レジ袋大幅削減に向けた提言書を、岩手県などへ提出。
1993年	・朝配達牛乳で、紙パックをリターナブルビン容器(720ml)へ切り替え。 ・レシート用紙を再生紙に。	2012年	・「コープの森づくり基金」設立。 ・「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート。 ・県「エコショップ」制度で、コープ高松が総合表彰、いわて生協全店も特別表彰を受賞。
1994年	・包装ラップを非塩ビラップに切り替え。 ・店舗の飲料自動販売機の台数を削減(42台から20台へ)。 ・ギフトの簡易包装紙を開発し、使用開始。	2013年	・秋田羽川風力発電共同事業に基本合意。 ・「食品産業もったいない大賞」で審査委員長受賞。 ・県「エコショップ」制度でベルフまつぞのが総合表彰。 ・電気自動車4台を盛岡南センターに導入。 ・「コープの森づくり」奥州市でスタート。
1995年	・ペットボトルの回収リサイクルを開始。 ・共同購入トラックにLPG(低NOx)を導入開始。	2014年	・「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ関コルザ・マリンコープドラに導入。 ・「できることからECOアクション賞」受賞。 ・県「エコショップ」制度で店舗事業が総合表彰、ベルフ牧野林が部門別表彰。 ・野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加。
1996年	・共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始(翌年全支部で開始)。 ・注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始。	2015年	・電気自動車3台を花北センターに導入。計7台に。 ・県「エコショップ」制度で、いわて生協が総合表彰。
1997年	・盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定。	2016年	・日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」からの電気購入スタート。 ・野田木質バイオマス発電、コープ東北羽川風力発電が稼働。
1998年	・回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用。 ・回収した商品案内チラシを原料に、アイコープトレイトレイトレーパーを商品開発。	2017年	・花巻バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・県「エコショップ」制度で、コープ花巻あうるが総合表彰。 ・紙パック、トレイ、卵パックの全量回収をめざす取り組みをスタート。
1999年	・アイコープ低温殺菌牛乳(200ml)をリターナブルビン容器に切り替え。 ・ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始。	2018年	・コープのでんき「ココエネ」開始。 ・県「エコショップ」制度で、いわて生協と3店舗が表彰。
2000年	・県内流通業で初めてISO14001の外部認証取得。 ・LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成。 ・マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始。	2019年	・大仙バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・「岩手県環境活動表彰」受賞。 ・県「エコショップ」制度で6店舗が表彰。
2001年	・印刷物に大豆インキを採用。 ・遺伝子組換え原料・飼料の排除の取り組み本格化。		
2002年	・買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更。 ・共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル開始。		
2003年	・買い物袋節約率が30%を超える。 ・コープアテルイで生ごみ堆肥化リサイクルを開始。		
2004年	・印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了。		
2005年	・岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける(全店)。 ・「森林(もり)を守る募金」開始。以後、この募金を活用し4年間で県内環境団体へ150万円贈呈。		
2006年	・初の太陽光発電をセリオホールみたけに設置。 ・共同購入トラックでBDF使用開始(6台)。		
2007年	・買い物袋節約率45%に。50%をめざす新目標を決定。 ・葬祭事業で環境負荷が少ない棺「エコ棺」を導入。		
2008年	・発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成。 ・共同購入トラックで燃費改善の取り組み開始。 ・買い物袋節約率が51%となり、50%の目標達成。		



いわて生協30周年記念マーク。太陽と岩手山、SDGsカラーを使い、岩手のくらしを明るく照らし、安心して暮らせる地域・社会づくりに取り組む決意を表現しています。



いわて生協の復興支援活動のマーク。「岩手山」と「握りこぶし」を表現し、「岩手のみんなが笑顔で安心して暮らせる未来を築くために、みんながかほろう!」の意味をこめています。

社会活動・環境活動報告書 2019年度の取り組み